

第9回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成25年10月7日（月） 9：00－10：45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、木内委員、原委員、松尾委員、御正委員、薬師寺委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

冒頭、委員に交代がある旨、事務局から紹介があった。

(1) 新たな基幹ロケットの開発着手に当たり、整理すべき事項について上記の議事について、原委員から情報提供があった。

○国際共同分野がISSから宇宙探査に移行する中で、輸送系分野での協力の可能性が出てきており、産業界としても期待しているところ。

○従来から行っている海外との共同研究の成果などを活用して、国際協力に貢献して参りたい。

続いて、JAXAから資料3に基づいて説明があった。主な内容は以下のとおり。

○新たな基幹ロケットの開発管理においては、JAXA内のフェーズ毎の審査に加え、JAXA外の第三者たる政府による評価が必要。評価の項目やタイミングは今後政府と調整。

○JAXAは、内部の独立評価組織たる「統括チーフエンジニア」を設置しており、新たな基幹ロケットの開発管理にあたってはこの組織を活用する。

○開発初期段階で不具合の可能性を網羅的に識別し設計で対処する「フロントローディング」の充実や、開発の進捗に応じてプロジェクトの状況を定量的に把握する管理方式（EVM：Earned Value Management）の導入等により、コストオーバーランの防止に努める。

説明を受けて、以下のような意見等があった

○官民の役割分担については、官と民で分断されたものとせず、官民が相互にコミュニケーションをしながら、プロジェクトを進めていくべき。

○欧米に比べて開発資金や技術者人材が少ない中で、我が国が国際競争力のある

ロケットシステムを開発するには、従来の延長線を超えた取組が必要。

○JAXAがロケット機体や開発体制の刷新に加え、新たな開発管理手法を導入することは評価したい。

○米国の Aerospace Corporation のような機能は、我が国ではJAXAが果たすしかない。

○新たな基幹ロケットの開発にあたり、技術的課題についてより明確化していく必要がある。

新たな基幹ロケットの開発着手にあたり、整理すべき事項については、本日の議論を踏まえて、引き続き議論を行っていくこととなった。

以 上